

地域おこし協力隊が行く！ 最終号

100年先も茅野が、生き生きとしたまちであるように——
観光まちづくりは、はじまったばかりです！

2017年から「地域おこし協力隊が行く！」として連載してきましたが、今回が最終回となります。今後も別の形で「観光まちづくり」について皆さんにお伝えしていきますが、ひとまずここで一区切り。

茅野市で「住んでよし、訪れてよし」を理念として掲げ、「観光まちづくり」の事業が立ち上がったのは今からちょうど5年前。そこから、総勢15名以上の地域おこし協力隊（および集落支援員）が茅野市に集まり、茅野版DMOの取り組みが本格的に動き出しました。

新しいブランドとしての「ちの旅」は、これまでの観光とはちょっと違います。「ただ通り過ぎるのではなく、土地の暮らしを身近に感じられる旅」。観光客向けにつくったコンテンツではなく、地域に元々ある暮らしや文化、仕事こそが、魅力ある体験となる。

住む人が、誇りをもって茅野の自然や、文化や、暮らしや、仕事を語り、
訪れた人が、茅野の自然の、文化の、暮らしの、仕事の、人のファンになる。

ちの観光まちづくり推進機構が手がける古民家宿泊施設「ヤマウラスティ」も、体験型旅行プログラム「ちの旅アクティビティ」も、過ごす時間を丁寧に提案する「ちの旅オーダーメイドツアー」も、すべてはそのために。

100年先も茅野が生き生きとしたまちであるための「観光まちづくり」を、これからも応援してください！

